

# としょかんだより 第88号

(1・2月合併号)

2015年2月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2015年3月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	5	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				
	9:00-21:30			13:00-21:30		
	9:00-17:00			休館日		

## 第6回 図書館戸田文化講座「古典籍入門」



12月9日の16時40分より、貴重書展観室におきまして戸田文化講座「古典籍入門」を開催しました。

講師の木下浩良さんの講演に耳を傾けながら、図書館が所蔵している古典籍を見るという貴重な機会となりました。

## 第7回 図書館戸田文化講座「西行の吉野の歌」

1月13日の16時40分より205号教室におきまして戸田文化講座が開催されました。

講師は図書館長の下西忠先生です。本年度最後の文化講座でしたが、学外からの参加者もあり、とても有意義な講座となりました。



皆様のご参加どうもありがとうございました。  
またのご参加をお待ちしています。

## 古写本の展示



「蘇悉地経上巻」や「毘沙門天王別行記」など、平安時代後期と鎌倉時代の古写本を図書館閲覧室で展示しています。興味のある方はぜひ図書館閲覧室へお越し下さい。

## 発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡

高野町高野山 385

高野山大学図書館閲覧室

TEL : 0736-56-3835

FAX : 0736-56-5590

E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

# 「三鈷」を投げた弘法大師

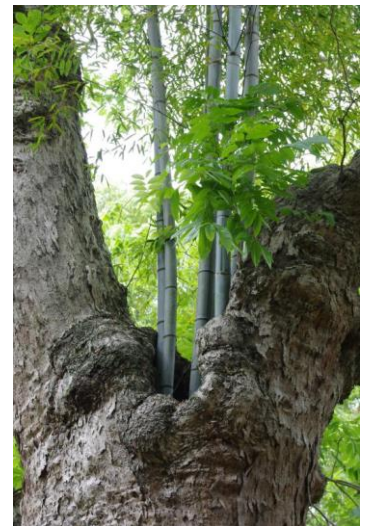
高野山大学教授 図書館長 下西 忠

八宗兼学の無住（1226～1312）は、とりわけ密教を高く評価していたことは、仏教説話集『沙石集』を一読すれば、容易に理解できる。巻二「弥勒の行者の事」には、密教は末法の時代にもっぱら利益があるとし、他の教えに勝ることは経文に明白であると述べている。その文脈のなかで人口に膾炙した大師の「三鈷」投擲の記述がある。この「三鈷」の記述は、多くある『沙石集』の伝本すべてにあるわけではない。以下の文章は、梵舜本（日本古典文学大系の底本）にあるものである。（ここでは読みやすさのためにあえてカタカナを平仮名に改めている）

真言の利、経文分明なる上に、当時の現証をいばば、弘法大師大唐にして、密教の青龍寺の恵果大師に伝へて、我国へ三杵をなげて、「真言修行相応の地にとまるべし」と誓給へるに、五古は東寺にとまり、三古は高野山にとまり、独古は土佐国にとまりて、已に四百余歳に及て、三密修行の霊地として、世こぞりて帰する故に、有縁の亡魂の遺骨を、彼山に納る事、貴賤をいはず、花夷を論ぜず、年に随て盛なり。

院政期の成立の説話集『今昔物語集』巻十一の二十五話「弘法大師始めて高野の山を建てつる語」に大師は「我が唐にして擲げし所の三鈷落ちたらむ所を尋ねむ」と思って、都を出て探し求めたとあり、山人に案内されて三鈷が突き刺さっていた所を見いだすことになる。本文には「一つの檜の中に大なる竹股有り。此の三鈷打ち立てられたり」とある。落下点が実に神秘的なところであった。檜と竹、さらに松との関係など興味ある点が多い。

さて、『沙石集』では、「三杵」（三個の杵〈鈷〉）があったことになる。鈷は、銅や鉄で作られているので堅固不壊で、よく物をくだくので、密教ではこれをかりて煩惱をくだき、諸悪を降伏させる智の標示としているようである。説明するまでもなく、両端の一本のものを独鈷、三叉のものを三鈷、五叉のものを五鈷という。落下点が東寺、高野山、土佐（室戸の最御崎寺）というように三つあったということになっている。通常の理解では「三鈷」のみということになるが、ここでは大師の生涯のなかで有縁の三つの地が紹介されている。



（奈良公園で撮影）

三鈷の「三」の理解のちがいによる異説であろうか。ここでは文字数の関係で、それらについての考証をすることはないけれど、ただ、このような記述がありますよ、という紹介程度にとどめておくことにする。本学の碩学浜畑圭吾助教によるすぐれた論考「三鈷投擲説話の展開」（ただ『沙石集』の「三鈷」についての言及はない）があるので、基本的な三鈷についての諸書の記述を参考にさせていただきたい。